



暁烏敏師揮毫の「皆當往生」。師が提唱した同朋生活運動が『宗門白書』を経て、真宗同朋会運動発足へと歩みを進めることとなる。

朝の晨朝も総長の法話を求めて多くの参詣が大師堂を埋め、11月の報恩講御満座には、御堂にあふれ、障子を外し余間にも立錫の余地なくされた。
この一連の事を、「こうした師の情熱あふれる活動は、全宗門人の心を揺さぶり、その年の御正忌報恩講はかつてない満堂の群参となった。全国各地から、次々と懇志が運ばれ、教団がかかえていた莫大な借財は一挙に返済され、宗門は画期的な黒字へ転じた」(『南御堂』)と報じている。
そういう大きな動きの中で「宗務総長というものに暁烏がなったのではない。暁烏が宗務総長になったのだ」(『同帰』)という言葉のもとに、昭和26年7月、暁烏内

局の新年度方針が示された。
まず「宗祖七百回御遠忌お待ち受けの発表」、次に「相統講の根本的改正」、これは「従来の勸財の心持を一転して、信心相統の上より、本願護持、法義相統の懇志を運ばしめるという根本精神によらなければならぬ」(『真宗』昭和26年7月号「新年度初頭に当たって」という募金が主となっていたものを是正し、そして、相統講精神の徹底を計るための全国的教化運動、まさに真宗同朋会運動の前身ともいえる、「同朋生活運動の展開」というものであった。
これは、相統講を教化活動の場に、本山での中央講習会を、この新年度方針により、復活という形で新設(昭和26年9月22日開設)

された教化研究所を主体として開催し、その参加者を教区集会の講師として、さらに組内の集会、そして各寺院の門徒集会という、本山から末寺までの教化を組織的な運動として行こうというものであった。
この運動を「本来の法義相統の面目を発揮し、法義と本山護持の同朋生活運動を展開しよう」というのであり、いわば教財一如の運動とするのである。「大谷派としては、未曾有の教化運動がここに展開される次第である」(『中外日報』昭和26年7月12日「同朋生活運動」と報じている。
まさに、昭和37年に発足する「真宗同朋会運動」の胎動である。

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信【第50回】

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb 検索

真宗同朋会運動50年に向けての、同朋会運動の「興り」「歩み」「展望と方向性」についての検証。今号は「興り」の最終回。暁烏敏宗務総長が提唱した、真宗同朋会運動の前身ともいえる「同朋生活運動の展開」について。

また「点描」では、前号に引き続き「教区定例法座」。1975(昭和50)年、教区教化委員会による「教区定例白書」と、前身の北海道教学委員会から通底する教区教化の願いについて。

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 興り(十一)

念仏総長と称された暁烏敏師 (その5)

教化本部 古卿 誠幸

師が四人の参務と交代で晨朝法話を始めて突き付けられた現実には、参詣人が毎朝五、六人という少なさであった。その一つの要因が荒れ果てた大師堂(現在の御影堂)にあった。障子は汚く破れはて、常に寒気が吹きすさび、畳はぼろぼろに破れ、参詣の人が自分で敷物を持ってこなければ座れないという状況にあっても、それすら修繕できない程財政は貧窮していた。当然宗務役員に支払われる給与は常に遅配していたという。
しかし、この赤字財政の問題は、暁烏宗務総長が誕生した事によって、門徒と本山の一体感が生まれ、その結果、宗門内に変化が現れた。「内局の実現に深い因縁のある北陸の金沢を初め、東海地

区は名古屋教務所方面を中心に義務金懇志の上納が馳せつける様子が、四国の某地の人からは大金の融通を言つてよすやら念仏内局の裏付けは大したもの」(『中外日報』昭和26年2月10日)と報じている様に、「赤字本山」といわれた東本願寺はその年の報恩講を境に黒字に転じ、3年と言われた返済計画が年末には完済した。さらに、師走の29日北安田の自坊に帰った師のもとに、大晦日、本山宗務所から「最低目標遥に越ゆ」「一千万以上新年に持ち越すこととなった。お心安く御越年あれ」と電報があった。
勤行、清掃、講話、座談会という1週間奉仕の体制が整い、全国から「本山奉仕隊」が上山し、毎

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

お待ち受け総上山

▼一日参拝 9月▲

9/30 宗祖親鸞聖人御眞影還座 式団体参拝

第5組 圓福寺

4名



動座式、還座式と参詣し、修復なった御影堂に響くお念仏の声。感動で身が震えました。

第5組 砂川信光寺

8名



講演で、阿弥陀堂より大きい、御影堂を建立した方々の思いを知りました。(門徒 内野 君子)

根室別院

8名



御修復された御影堂の大きさに感動し、口々に御遠忌が待ち遠しいと笑顔で話しました。